

# 京都生活協同組合（京都府）

2030年ビジョン「京都生協は新たな希望をつくる」を目指して

## 【京都生活協同組合の概要】

- 設立：1964年11月（高度経済成長による物価の高騰などで暮らしに不安が募る中「お互いに頼もしき隣人となりましょう」の呼びかけで誕生）
- 主な事業内容：宅配事業、店舗事業、福祉事業、共済事業、葬祭事業
- 活動範囲：京都府全域
- 店舗数：京都府内に18店舗（2022年10月現在）



## 【取組の概要について】

- 設立時から組合員の声にあわせた商品、サービスの提供や、環境課題への取組を推進
- 日本生協連は2018年6月の通常総会において「コープSDGs行動宣言」を採択。
- 京都生協では「京都生協は新たな希望をつくる」を2030年のビジョンとして、事業活動を通じたSDGsへの貢献を推進している。
- 京都府、京都市が推進している「食べ残しゼロ推進店舗」に全店舗が認定。



## 【主な成果（2021年度）】

- フードドライブ  
（開催店舗：13店舗、総回収量：6,272Kg）
- 店舗における「てまえどり」
- （2021年10月から実施）
- 店舗での食品リサイクルの推進
- （2021年度：食品リサイクル率43.8%）
- 宅配事業での良品返品ルールの周知  
（「注文違い」などを理由とした食品の返品を減らすため、組合員への周知を図る。  
2021年度の食品の良品返品削減数：約47,200点）



京都生協キャラクター「きょうまる」

# 京都生活協同組合（京都府）



## 食品ロスの発生抑制（消費者啓発の取組）

- 店舗でお買い物をされる組合員へ、商品を手前から消費する「てまえどり」を推奨。
- 「てまえどり」は京都市の依頼からスタートし、京都府内の全店舗で実施。
- 賞味・消費期限当日まで商品を陳列・販売するコーナーを設けて、食品ロス削減への協力を呼びかけ。
- 京都市からの食品ロス削減月間の協力依頼を受け、2021年度に食品廃棄モニターの登録宣伝に協力し、全店で取組を行った。（対象期間・品目で前年比の約6割減となった。）
- 自動発注システムを活用した、適正な商品発注を実施。



## 食品リサイクルの推進

- 店内調理時の食品残渣を堆肥化などでリサイクル。2021年度の食品リサイクル率は43.8%となっている。

## フードバンクとの連携

- 宅配物流センターにある予備商品（納品数量により、在庫に端数が発生した商品や、不良品の交換用の商品など）をフードバンクへ継続的に提供。



フードバンクへの引き渡し

## 店舗でのフードドライブの実施

- 家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、それらを必要とする方々へフードバンクを通じて提供する「フードドライブ」を2017年度より実施。
- 2022年度は新たに2店舗が実施を行い、全18店舗のうち15店舗で実施している。
- 集まった未使用食品は、京都府内の4つのフードバンクへ引き渡しを行っている。

